

強みを生かして
確実・短納期の
金属加工からロボットまで



「改善」が導く これまでと、これから



代表取締役
沓澤 淳利 Kutsuzawa Atsutoshi
〒019-0701
横手市増田町増田字館花20-1
TEL.0182-45-3873
http://www.kutzawa.co.jp/honsha.html
◎設立/1989年11月27日
◎資本金/1,500万円
◎従業員数/128名
◎業務内容/・産業用機器に使用される
精密機械部品の加工
・ロボット等を用いた
自動化装置の設計製造

横手市にて、金属・機械加工業を営む、株式会社クツザワ。1980年の創業時はごく小規模のスタートだったが、1989年の法人化後は業務拡大を続け、近年ではロボット事業部を設立。現在、本社工場のほか、横手市十文字、神戸市、中国にも事業所を構えるほどの成長を遂げている。同社を支えてきた技術や取り組み、そして、その根底にある精神を、代表の沓澤淳利氏に伺う。

「改善」という指針

同社の大きな強みとして、「短納期の製造」が挙げられる。例えば、「15時に受注したものを、材料の切り出しから出荷まで17時には終わられる」という、驚くべき早さだ。その技術、応対、管理が評価され、機械部品大手商社との取引が叶ったことが、現在の事業の拡大に繋がっている。

この背景には創業当初から常に持ち続けている「改善」の考えがある。機械の導入、加工技術、管理体制など、日々、

企業全体が「改善」を心がけ、より高みを目指し取り組んでいるのだ。

人口減少に向けた「改善」

長きにわたり金属加工業を主としてきた同社だが、近年ではロボット事業にも着手している。これは、ロボットユニットを用いて顧客の製造ラインの自動化を提案をするというもので、実際に現場を訪ね全体の流れを見たとうえで、導入すべきポイントを検討している。

「人だからこそできる『何かを生み出す、考える』というところに集中するために、ロボットを使ってもらえたら」と沓澤氏。

人口減少、高齢化の著しい本県。人手が減っていくなかでも企業が生産を維持していくための改善方法として、ロボットとの協調はさらに求められていきそうだ。

社員の生活の「改善」

「改善」は、社員一人一人へも向けられている。その一つとして、健康経営を重要視しており、毎日のラジオ体操のほか、工場内通路には、運動効果のある歩幅の目安が記されており、業務中に健康を意識することができる環境になっている。また、社員食堂では栄養士考案による昼食を提供し、朝食としてスムージーの提供なども行っているという。さらには歯科定期検診もあるという充実ぶりだ。

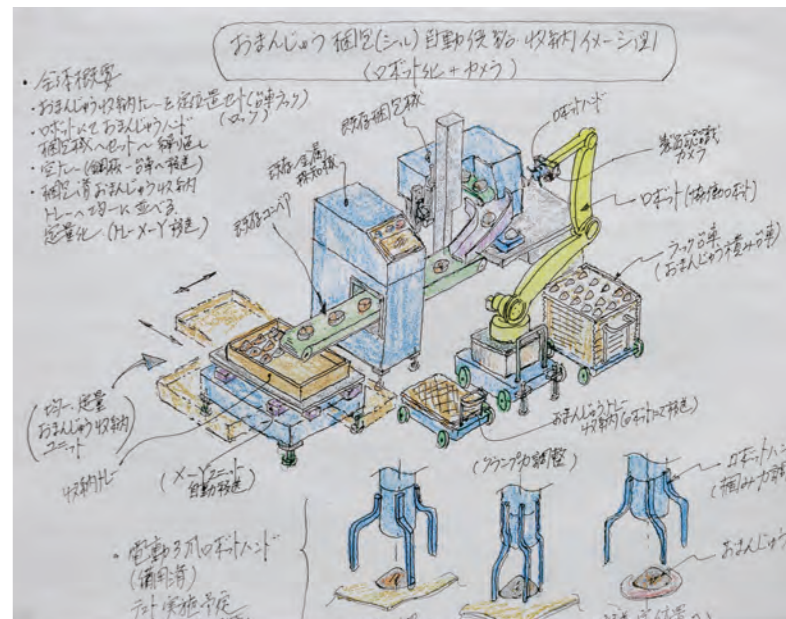


現在、社員数は128名。
その多くが20~30代という、
若さ溢れる職場です。

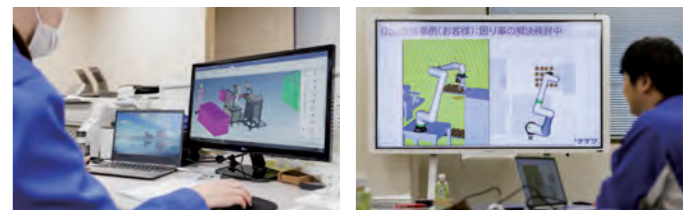


実際のロボットを見ていただき、
具体的なイメージができるように
なっています。

横手市十文字にある「ロボット工房」では、現在7台のロボットが展示され、実機を使った商談に使用できるほか、地元の生徒や一般の方も見学できる。



ロボットの自動化では、技術者が自ら手書きの構想図を作って顧客へわかりやすく提案している。



顧客のニーズに合わせて、社内にてロボット装置の設計を行なっている。

ほかにも、技能検定の費用負担や、検定経験者が学習サポートをする仕組み、検定取得後には技能手当なども用意されている。

「会社が社員のためにできることをして、社員がそれに応えてくれるような、『与え合える関係』になって、少しずつでも社員にとって理想の会社になっていけたら」と、沓澤氏。同社による「改善」は、さらに深いものとなっていきそうだ。